

KH コラム Q & A

一般・販売関連

適用範囲

技術関連

製作関連

一般・販売関連

Q. 発注してから納品までの期間はどの程度ですか.

A. 材料の在庫や生産の状況によりますが, KHC450 以下の場合 2.0 ヶ月, KHC500 以上の場合 5.0 ヶ月程度となります. 詳細はお問い合わせ願います.

Q. 適用に当たり, 最小ロットなどはありますか.

A. 最小ロットはありません. 一つからでもご注文いただけます.

Q. 生産体制はどのようになっていますか.

A. 受注生産です.

Q. 製品の保証はどのように行っていますか.

A. 製品検査証明書を別途発行致します. また, 製品精度については設計・施工指針 p16-17 を参照願います.

Q. 見積もりを依頼する場合, どの程度の情報が必要ですか.

A. KH コラムの型番, 長さ, 個数, 納入希望期日, 納入場所があれば見積もりは可能です.

Q. 従来工法から KH コラムへ変更した場合, 重量はどのようになりますか.

A. 条件にもよりますが, 接合部のみを比較した場合, 概ね 1.5 倍~2 倍程度となります.

Q. 具体的に KH コラムへ変更したい場合, どのようにすれば良いですか.

A. 設計フローに従って, 置き換えが可能かご確認ください. 変更の可否は構造設計者の判断によります. 建築確認申請には, 標準図と評定書を用意することとなります. 建築確認申請時に質疑があった場合, 評定資料に基づき, できる限り対応させていただきます.

Q. ファブからの VE 提案の場合, どのような手順となりますか.

A. 使用したい箇所を明示し, コストと合わせてゼネコンより構造設計者へ打診していただくこととなります.

Q. 従来工法から KH コラムジョイントへ変更する場合, 建築確認申請は「軽微な変更」になりますか.

A. 設計者に判断を委ねることになりますが, ファブから VE していただいた件では「軽微な変更」で対応していただいたようです.

Q. 設計に織り込む場合、特別な申請が必要ですか.

A. 評定書, 標準図, 設計・施工指針を添付していただくだけで, 特別な申請は不要です.

適用範囲

- Q. KH コラムの使用に製作ファブ、メーカー等の制限はありますか。
A. 特にありませんが、KH コラム側に開先を設けた場合、鉄骨製作工場の認定グレードの制限を受けますのでご注意ください。
- Q. KH コラムを使用する際、コラム側のメーカーに指定はありますか。
A. 特にありませんが、準拠規格については、設計・施工指針 p2 を参照願います。
- Q. 規定サイズ外の特注は可能ですか。
A. 規定サイズのみに対応となっております。申し訳ありません。
- Q. 柱頭部で 2 面勾配（寄棟など）への斜め切り対応は可能ですか。
A. 可能です。
- Q. 梁の適用一覧表で「-」や適用不可の場合でも、適用できる可能性はありますか。
A. 保有耐力接合条件で適用外の場合でも、実際使用するコラムでの個別照査で適用可能なケースがあります。また、内ダイアフラムを併用することで適用可能とする方法も用意されております（設計・施工指針 P8）。詳細は、お問い合わせください。
- Q. ブレースに対応はしていますか。
A. 耐震用鉛直ブレースが取りつく接合部には適用外となっております。水平ブレース、片持ち梁の吊部ブレース等、耐震用鉛直ブレース以外のブレースは適用が可能です。
- Q. 斜め柱に対して、対応可能ですか。
A. 対応可能です。
- Q. レジューサーとしての使用は可能ですか。
A. レジューサーとしての使用は適用外です。
- Q. 300 より小さいサイズの予定はありますか。
A. 現状では、予定していません（2018.10 月現在）。
- Q. めっきに対応可能ですか。
A. 構造上は問題ありませんが、使用者の判断でお願いします。
- Q. 柱の 2 面にかかる梁は対応可能ですか。
A. 現状では適用外です。
- Q. 梁が軸回転をしても適用は可能ですか。
A. 可能です。

Q. 梁が柱に対し、偏芯していても適用可能ですか.

A. 適用可能です. KH コラムジョイントと同面の位置まで偏芯可能です.

Q. ノンブラケット形式にも適用可能ですか.

A. ブラケット, ノンブラケット形式に関わらず, 適用可能です.

Q. 現場溶接対応の梁に使用は可能ですか.

A. 適用可能です.

技術関連

- Q. R 階の収まりでトップ PL タイプとした場合でも、剛と考えてよろしいですか。
A. 剛と考えて問題ありません。
- Q. 最上階の使い分けはどのようになっていますか。
A. トップ PL 形式が多いようです。使い分けは収まり等から決まっていると思われま
- Q. 柱頭部のダイアフラムの材質、板厚はどのようになっていますか。
A. 集合する梁の最低規格以上の材質ならびに集合するフランジの最大厚の 2 サイズアップ以上となります (設計・施工指針 P7)。
- Q. 余長の短縮は可能ですか。
A. 余長を守るものが原則です。柱・梁の組合せにより、個別照査で短縮できる可能性があります。
- Q. コラムの R 部と KH ジョイントの関係はどのようになっていますか。
A. コラムアール部を含めコラム全断面が KH コラムジョイントに載るようコラムサイズを限定しております。
- Q. KH コラムの長さ 2,000mm の理由は何ですか。
A. これまでの実績で決めました。最近長さ制限を超えるお問い合わせが来始めておりますので見直しを検討中です。
- Q. 鉛直ハンチ、水平ハンチがある梁に対して対応可能ですか。
A. 鉛直ハンチは、端部断面での照査、水平ハンチは拡幅前の元々の断面サイズで照査して問題なければ対応可能です (設計・施工指針 P5)。
- Q. 梁に鉛直勾配があった場合、梁成は鉛直方向ではなく、元々の梁成で良いですか。
A. 元々の断面で考えます。
- Q. 変断面の片持ち梁にも適用は可能ですか。
A. 梁端部の断面サイズで照査して問題なければ対応可能です。なお、片持ち梁は弾性梁ですので KH コラムジョイント側の耐力に十分余裕がありますので、余長の制限を緩和しての適用可能性があります。ご相談下さい。
- Q. 適用に当たり、設計計算は必要ですか。
A. 特別な設計計算は不要です。対応表に照らし合わせていただければ OK です。

製作関連

- Q. KHC と製作工場認定（グレード）との関係はどのようになっていますか.
- A. KHC はベース PL と同等の扱いとなりますので，J グレードより使用可能です．ただし，KHC に開先を設けた場合は元々の板厚制限を適用する必要があります．
- Q. KHC と BCR の溶接，コーナーR 部の溶接に問題はありませんか.
- A. KHC とコラム柱の溶接は，コラム柱とダイアフラムとの溶接と同様になりますので，問題ありません．また，溶接時は下向き溶接となり，通常の板継溶接と同様となりますので，角落ちの懸念は不要です．
- Q. 製品の寸法誤差の吸収はどこでおこなえば良いですか.
- A. 製作時の寸法誤差の吸収は，KHC とコラムとの溶接部のルートギャップ部の調整で行います．
- Q. KH コラムと柱本体の溶接にロボット溶接は適用可能ですか.
- A. 適用可能ですが，ロボット溶接機により対応ができないケースがあるようです．詳細はロボット溶接機のメーカーへ確認をお願いします．